

項目別の自己評価表

1. 学校の教育目標

横浜 YMCA はキリスト教主義の団体として、イエス・キリストの生き方にもとづき、人間性が尊ばれ、平和で公正な世界の実現をめざし、「横浜 YMCA—私たちの使命—」を制定しました。横浜 YMCA 学院専門学校においても、学校そのものがこの使命を追求していきます。同時に学生自身が「横浜 YMCA—私たちの使命—」に共感し、実践できる人材として成長できるように支援し、専門分野において十分な貢献を果たせるように、また地域社会、ひいては広く世界の「平和と公正」に寄与できる人材を養成したいと考えます。

①ホスピタリティマインドを身につけた作業療法士養成をめざします。

ホスピタリティとは、互いの命や存在意義を理解し、認め合い、共に生きていくこと、またそれを実践する精神をいいます。共に生きていくということにおいては、人間として相互に理解し共感する態度が求められていると考えます。私たちは、このような価値観、人間観を持つ作業療法士を養成したいと願っています。このホスピタリティマインドを養成するため「キャラクター・ディベロプメント(人格向上)」に取り組めます。人間形成に必要とされる価値は様々ですが、その中でも YMCA は特に、Caring(思いやり)、Honesty(誠実さ)、Responsibility(責任感)、Respect(尊敬心)が大切であると考えています。これらは、目新しいものではありませんが、人間の形成に関わる普遍的なものとして取り組んでいきます。

2 高い専門的知識と臨床での能力を養います。

リハビリテーションや作業療法に関する研究や取り組みは日々進歩しています。最新の研究成果を授業に組み込むとともに、また常に現場での臨床を意識した授業を行います。同時に国家試験対策もさまざまな授業法をとりながら実施します。臨床実習では、現場の実習指導者と緊密な連携を保ちつつ、実習中の指導はもとより、実習前後の指導も十分に行い、即戦力となれる能力を養います。

3 日本にとどまらず、世界で通用する人材を育成します。

世界で通用するような人材を養成するため、カリキュラム内容も世界基準(WFOT)を意識したものを展開します。また、YMCA のネットワークを使った海外研修や海外ボランティアの機会を提供します。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

安定した学校運営を目指し、新入生の定員数確保を目標とします。そして、退学者防止対策を教職員一丸となって取り組みます。

学生募集にあたっては、これまでの広報費用をあげることなく各種媒体業者との交渉を行い、高校生への周知を中心とした募集方法を継続します。学校の告知方法として、現在では一番有効となる Web での情報公開だけでなく、SNS を利用した双方向のコミュニケーションを可能とした手法を取り入れて、希望者に対して有効な情報を提供できるように、そして丁寧な対応ができるように工

夫します。

作業療法士国家試験合格率 100%(現役生)を今年度も目標とします。そのために、これまでのグループワークの手法を取り入れた国試対策勉強法を日々継続し、国試対策など集中的に学びを深める試験対策も実施します。

退学者防止に向けては、学習習慣が定着していない学生に対しての補講授業の導入、基礎専門科目の定期的な小テストの実施、専任講師による個別面談などを、1年次より取り組みます。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野における職業教育の特色は何か)	④ 3 2 1
学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが生徒保護者等に周知されているか	④ 3 2 1
各学科の教育目標,育成人材像は,学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

① 課題

理念や学校教育目標をすべての教職員が理解し、知識・技術だけではなく「人とかかわる専門職」として必要な行動様式をも身につけることを目標として、広く周知を心がけていく。作業療法士は、業界からのニーズも高く、養成は社会的にも期待されている。魅力ある職業として、魅力ある実践教育の場として、また福祉社会の担い手としての魅力を十分に伝えきれていないことは今後の課題となっている。

② 今後の改善方策

作業療法士養成施設であることの認知度を上げるためにも今まで以上に丁寧に高校との連携を図り、出張授業などの積極実施や SNS やロコミなど地道に作業療法科の学習内容を分かりやすく知らしめる努力が継続的に必要である。魅力ある職業として紹介し、活力ある医療の担い手の発掘に努める。

③ 特記事項

学校説明会や入学時のオリエンテーション、保護者会など、あらゆる場面で学校教育目標と育成人材像を丁寧に説明している。資格取得に留まらず、他者への配慮、尊敬する心、そして自らが誠実さや責任感を育むための経験を学習機会に取り入れ、人とかかわる専門職に必要となる豊かな人間性の成長を学校生活の中で育める教育活動を目指していく。

(2)学校運営

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
運営組織や意志決定機能は,規則等において明確化されているか,有効に機能しているか	4 ③ 2 1
人事,給与に関する制度は整備されているか	④ 3 2 1
教務,財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4 ③ 2 1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

① 課題

コロナ禍にありオンライン授業を併用し規定の授業回数を確保したが、特にオンライン授業時は学生のPC環境によりスムーズに進まない場面も見受けられた。

2 今後の改善方策

在籍学生に対し、PCスペックを明示し個人での準備を促すようにして、オンライン授業に臨むよう準備を進める。

3 特記事項

Google Classroom の運用が進み、授業の事前案内や授業内で使用する資料の事前確認が進んだ。

(3)教育活動

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
教育理念等に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
教育理念,育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④ 3 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
キャリア教育実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか。	④ 3 2 1
関連分野の企業関係施設等,業界団体等の連携により,カリキュラムの作成見直し等が行われているか	④ 3 2 1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ,実技実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
授業評価の実施評価体制はあるか	④ 3 2 1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
成績評価単位認定の基準は明確になっているか	4 ③ 2 1
資格取得の指導体制,カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 ③ 2 1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1

関連分野における業界との連携において優れた教員(本務兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
関連分野における先端的な知識技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

①課題

コロナ禍にあつて教員の研修は、オンライン研修を交えて実施された。専門性の確保、情報交換の場として生かされているが、学校職員が、学校業務を担うにあたり必要な知識習得のための研修は十分ではない。同法人内での異動もあるため、引き継ぎ伝達やOJTだけではなく、学校業務としての事務処理能力、学生対応法などの研修が必要である。

2 今後の改善方策

学校業務については教職員間でのOJTが円滑に進むようマニュアルを作成するほか、管理システムの変更を行う必要がある。また、教職員間のコミュニケーションを増加させ、学生状況など情報を共有できる体制づくりを考えたい。

3 特記事項

教育課程編成委員会には、業界有識者のほかに本校の学習範囲となる医療系施設役職者を迎え、職業現場での最新の情報を得ながら、どのように体系的にカリキュラムとして提供すべきか意見を仰いでいる。

(4)学修成果

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
退学率の低減が図られているか	4 3 ② 1
卒業生在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1

卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 (3) 2 1
--	-----------

①課題

校友会等の協力による就職ガイダンスではオンラインでの実施ではあったが、医療の分野で現任者として活躍する卒業生が、自身の就職活動や学生生活での体験などを良きロールモデルとして語ってくれている。教育活動の様々な場面で、学生自身のキャリア形成に向けて、学生自らが考える機会を持てるようにする必要がある。

2 今後の改善方策

学校評価委員会委員である卒業生たちからも意見をいただくこと、卒業後に現場で活かされた学生生活での学びや経験などを聞き取ることなど、日頃の教育活動の中で養うことのできるカリキュラム編成を目指す。また、非常勤講師も含めて、キャリア形成に向けた授業となるように再度、確認していく。

3 特記事項

就職率については、継続的に就職希望者の全員が就職を果たしており良好と言える。しかし、就職活動時期は年々遅くなり、今年度はほとんどの学生が国家試験終了後の活動である。

(5)学生支援

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
進路就職に関する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	4 (3) 2 1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4 (3) 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 (3) 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 3 (2) 1
学生の生活環境への支援は行われているか	4 (3) 2 1
保護者と適切に連携しているか	4 (3) 2 1
卒業生への支援体制はあるか	4 (3) 2 1

社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
高校,高等専修学校等との連携によるキャリア教育職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

全クラスに担任制を導入し、学生の入学から卒業・就職まで個別に相談・対応できる体制を整えている。一方、一人ひとりの学生が抱える課題が多様化し、教職員に求められるスキルや時間も相当量増えてきている。

② 今後の改善方策

学生一人ひとりの課題(基礎学力不足、学習経験の不足、学習障害など)を早期に明確にし、クラス担任による定期面談の回数を増やしたい。また、専門職によるカウンセリングなども取り入れ、多様化した課題を正しく把握するとともに、家庭と、必要に応じた専門機関との連携を持った就学支援を行う。

校友会と協力し、インターネットを利用した卒業生向けのアンケートなどを行いリカレント教育のニーズを把握し提供できるよう進めたい。

3 特記事項

自己表現力を育む授業を2年次から開講するように変更した。

(6)教育環境

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
施設設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 ② 1
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

① 課題

施設設備は、現状の状況にあわせて備品の見直しを行った。雨漏りの頻発、窓ガラスのひび割れ、床の沈みなど施設の老朽化が課題である。

2 今後の改善方法

オンライン授業時の Google Classroom の導入により、災害時においても複数の連絡方法が確立できた

3 特記事項

特になし

(7)学生の受入れ募集

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
学生募集活動は,適正に行われているか	4 (3) 2 1
学生募集活動において,教育成果は正確に伝えられているか	4 (3) 2 1
学納金は妥当なものとなっているか	(4) 3 2 1

①課題

国の高等教育の修学支援制度の認定校となり、4名の学生が対象者として活用している。学費納入が2回では不可能なケースが増えており、特別分割納入で対応を取らざるを得ない状況である。

社会人の募集が不十分であり、社会人への広報の強化が課題である。

2 今後の改善方策

医療福祉系国家資格取得者や社会人向けの特別入試制度を採り入れた。学費については入学前に十分な相談を行うようにしている。

3 特記事項 特になし

(8)財務

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 (3) 2 1
予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 (3) 2 1
財務について会計監査が適正に行われているか	(4) 3 2 1
財務情報公開の体制整備はできているか	(4) 3 2 1

①課題

学生募集を強化し、財務基盤の安定に努める必要がある。授業備品の整備が不十分である。

2 今後の改善方策

学生の学習環境を向上させるため、各教科の参考図書を十分に図書室に整備する。

3 特記事項

特になし

(9)法令等の遵守

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
法令,専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4 (3) 2 1
個人情報に関し,その保護のための対策がとられているか	4 (3) 2 1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4 (3) 2 1
自己評価結果を公開しているか	4 (3) 2 1

①課題

自己評価は教職員全員で毎年実施しているが、その振り返りや課題への対応・改善には取り組めていない。

2 今後の改善方策

評価を元に、課題改善に向けての取り組みを教職員全員で取り組むことができるよう、半期ごとに振り返りのための時間をもつ。あわせて、学校関係者や卒業生など、外部の委員を召集し、学校評価委員会を年に2回実施する。

3 特記事項

特になし

(10)社会貢献地域貢献

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献地域貢献を行っているか	(4) 3 2 1
生徒のボランティア活動を奨励,支援しているか	4 (3) 2 1

地域に対する公開講座教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1
---	---------

① 課題

教職員は、地域で開催される研修で講師や、施設が主催するプログラムにおいて指導を務めるなど、学校の持つ専門性を地域で活かす取り組みを進めている。また、2018年度後期から作業療法士の専門性を活かした認知症カフェ「つながるCafé」を毎月開催しているが、今年度はコロナの影響で1回のみの実施となった。

2 今後の改善方策

ホームページへの掲載や、横浜 YMCA 内外との連携を通して広報活動を強化する。

3 特記事項

経営主体となる法人はボランティア団体としての側面も持ち、ボランティア活動の機会は学内外に多分にある。このことは入学前から伝えており、学生たちの期待も高い。つながるCaféには学生もボランティアとして参加し、臨床に近いボランティアの場として、貴重な学びの機会としていきたい。

(11)国際交流(必要に応じて)

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
留学生の受入れ派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4 3 ② 1
受入れ派遣,在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4 ③ 2 1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4 3 ② 1
学内で適切な体制が整備されているか	4 3 ② 1

①課題

本校で設置している留学生を対象とした日本語学科、国際情報ビジネス科が、コロナの影響で日本に入国出来ない状況にあった。学校行事等で、留学生と関わる機会が減ってしまっている。

2 今後の改善方策

授業外での卓球等のレクリエーション活動で交流する機会を設けていく。

3 特記事項

特になし

【参考】

全国 YMCA 専門学校運営ガイドライン

- (1) 学校の主役たる学生理解
- (2) YMCA 教職員像
- (3) 教職員採用の考え方
- (4) 授業評価システムとシラバス
- (5) 会議体の機能活性化と効果的コミュニケーション
- (6) 校長の役割
- (7) 地域との関係づくり
- (8) 保護者との関係づくり
- (9) 全国 YMCA 協力の推進

以上